

阿蘇くじゅう国立公園

火山群

阿蘇くじゅう国立公園では 270,000 年前から火山活動が起こっています。90,000 年以降火山活動によって現在の地形が形成されました。東西 18km、南北 25km にわたる阿蘇カルデラは数千年に及ぶ 4 回のそれぞれ別々の噴火によって形成されました。

第 1 期は、120,000 年から 270,000 年前の間に起こった 3 回の火山活動からなり、火砕岩の大規模な流出が活動する火口の周りに台地を築き上げました。約 90,000 年前に起こった別の噴火が火砕岩台地を拡大しました。この噴火後、土砂崩れや山体の陥没、クレーターの崩壊によりカルデラが形成されました。この後火口付近は莫大な量の雨水をため、長い年月の間大きな湖でした。何千年も前のある時地震が起き、この水が流出した結果、現在のカルデラの形が出来上がりました。

くじゅう連山も火山で形成されており、約 15 万年前に活動を開始した活火山です。最近 5000 年の間は、1000 年程度の感覚で噴火が発生しています。大規模なマグマ噴火としては、約 1700 年前に生じた黒岳の噴火が最後です。近年では、1995 年 10 月 11 日に、硫黄山（いおうざん）で噴火が発生し、火口から 100m の範囲にこぶし大の噴石が飛びました。現在でも、硫黄山はガスを噴出しています。

2 つの活火山である阿蘇連山の 1 つ阿蘇山とくじゅう連山の 1 つ硫黄岳を擁するこの一帯は未だに噴火活動に見舞われており、最近では(2010 年以降 3 回)ほとんどが火山灰や岩の小規模な噴火が何回か起こっています。

噴火の際には火口の周囲から避難しなければなりませんが、この火山環境からは、豊富な水資源や温泉、夏の季節の涼しい気候などの多くの恩恵を受けることができます。